

■ ■ 授業科目名 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 4	■ ■ 科目区分 主題科目	
	■ ■ 時間割コード 000104	
■ ■ 講義題目 日中経済関係の歴史的考察 Historic Consideration of the Japan-China Economic Relations	■ ■ 年度 2012	■ ■ 時間割 前期 火2
■ ■ 担当教員 山本 裕[Yamamoto Yu]	■ ■ 単位数 2	■ ■ 教室
	■ ■ 対象年次及び学科 1～ 全学共通科目	

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

講義90分 × 15回 + 自学自習

■ ■ 授業の概要

世界に目を向けると、日本とアジア諸国の結びつきは、今後ますます強くなっていくものと思われます。特に中国は、ついに2009年度に入って、日本の貿易の最大の輸出入国へと、その地位を上昇させました。このような現状の動向を踏まえて、経済的領域を中心に日本と中国との関係を、近現代(19世紀末～20世紀半ば)に則して考えていきます。

ここで、経済的領域を中心に、と記したのは、狭義の経済的領域のみに注目したのでは、その実像を掴むことがかかって困難になるからです。必要に応じて、社会・政治(外交・軍事を含む)・文化等の領域についても着目しながら、考えていきます。

■ ■ 授業の目的

本講義の目的は、歴史的観点から考察を行うことで、日本と中国との経済関係の現状をよりよく把握し未来を展望する上での一助にする点にあります。この目的に向かう上で、広い視野からひとつの出来事の把握を行い、その出来事と他の出来事とが如何に関係し合っているのか(あるいはしていないのか)を常に考え続けていきましょう。

■ ■ 到達目標

- 1) 近現代日中経済関係に関わる基礎的知識を習得出来る。
- 2) 高校までに強いられてきた暗記中心の歴史学習と決別し、歴史上起きた出来事について、何故、その時に、その所で起きたのか、を、さかのぼって考えることが出来るようになる(=演繹的ではなく、帰納的に考えることが出来るようになる)。

■ ■ 成績評価の方法と基準

期末試験(80点)と、授業レポート(20点)で成績を判断しますが、任意の読書レポートを提出した者には、加点を行います(最大で20点)。また、突発的に授業アンケートを課す可能性がありますが、その際、回答者には適宜、若干の可点を行います(優れた意見の提出者には、更に加点します)。なお期末試験は自筆ノートのみ持込可とします(配布資料は不可)。毎回ノートを取り、復習して充実した自筆ノートを作成することが単位取得につながります。

■ ■ 授業計画並びに授業及び学習の方法

毎回、レジュメを配布します。受講者には、毎回、講義内容について、自筆ノートを作成しまとめなおすことを推奨します。講義期間中、1回、レポートを課します。

以下の計画に沿って講義を展開する予定ですが、受講者の皆さんの理解度等を勘案し、期待する理解度に到達していないと判断した場合には、より、ゆっくりと時間をかけて講義を行うことで、いくつかの講義単元を行わない可能性があります。

第1回: ガイダンス

第2回～第3回: 日清戦争と日露戦争

第4回～第5回: 近代日本と中国大陸

第6回: 近代日本の「満州」移民と在満日本人の活動—日露戦争直後を中心に—

- 第7回: 日中経済関係と第一次世界大戦の影響
- 第8回～第9回: 1920年代における「満州」経済
- 第10回: 1920年代における台湾経済
- 第11回: 金融恐慌・昭和恐慌と日中経済関係の展開
- 第12回: 満州事変・「満州国」創出以後の「満州」経済の再編
- 第13回: 「日満経済ブロック」から「日満「支」」経済ブロックへ
- 第14回: 「大東亜共栄圏」の形成—太平洋戦争下の日中経済関係—
- 第15回: 第二次世界大戦以後の日中経済関係の「修復」

なお、講義で用いる配布資料は、毎回、Moodleにアップロードします。

受講者は、講義に先立って、Moodleから配布資料をダウンロードして、講義に持参して下さい。

毎回の講義の予習としては、配布資料を読みながら、よく分からない字句等を、事前に調べて下さい。また、内容がよくわからないところがどこなのかを確認して、講義の際に集中して受講すべきトピックは何であるのかをメモして下さい。メモや調べた内容は、ノートにまとめ、そのノートを講義に持参して下さい。

■ 教科書・参考書等

特に指定しません。

第1回の講義の際にお知らせします。

■ オフィスアワー

水曜日6限・7限。また、メールで連絡して頂ければ、随時、対応します。

なお研究室は、南キャンパス(経済学部・法学部キャンパス)3号館3階13室です。

■ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義で扱った内容について、自ら問いを立てるような積極的な受講態度を望みます。なお、担当者のメールアドレスは以下の通りです。yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp

■ 参照ホームページ

■ メールアドレス

yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp